

おんなのろの辞令書



順治15年(1658年)

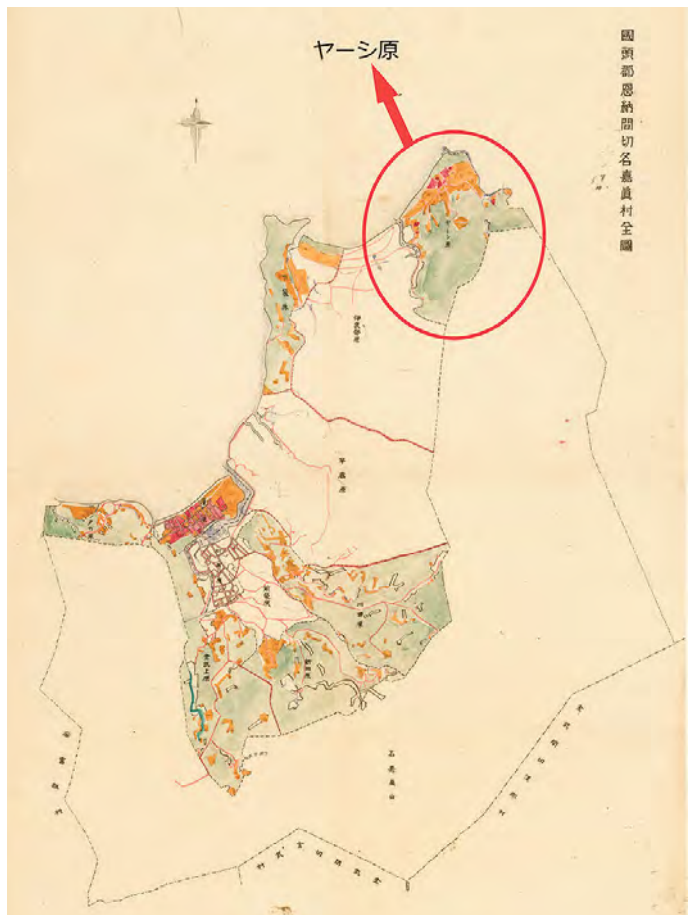


万曆12年(1584年)

事業が行われる前まで、人々は私有地を持っていませんでした。税はムラごとに課され、各ムラでは土地を住民に割り当てて(ムラによって方法が違います)、ムラ単位で税(米などの農作物)を納めていました。

「恩納間切名嘉真村」の地図を見ると、大きな道路は現在と違いますが、集落とそばを流れる川の様子は現在とほぼ変わっていません。家は赤色で示されており、ヤーシ原に見られる家々は伊武部集落です。伊武部には1870年頃から移住者がいたそうで、この頃にはだいぶ住宅が増えていることが分かります。

このように史料を見ていきますと、恩納間切が創設された350年前から、「恩納村」となった1908年、そして現代へ脈々と歴史はつながっていると感じます。(幸喜)



【参考文献】

- ・『恩納村誌』仲松弥秀 1980年
- ・『名護市史・本編11 わがまち・わがむら』名護市史編さん委員会 1988年
- ・『なきじん研究』第15号 今帰仁村歴史文化センター 2007年
- ・『沖縄歴史地図(歴史編)』宮城栄昌・高宮廣衛 1983年
- ・『補遺伝説 沖縄の歴史』島袋源一郎 1932年